

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「あんしん・あたたかい・あずましい」を理念にかかげている。買物や地域の行事・知人、家族の面会を通して、隣近所だけでなく周りの地域の方々と交流を持つようにしている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者は毎月の職員会議で毎回のように理念について話をされているし、職員間では勉強会を開き理念に沿ったサービスが提供されているか自問自答し、チームで確認しあっている。</p>	<p>今まで通り継続していくべきことであり、管理者・職員共々理念の共有・実践に力を注いでいきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を通して説明を続けている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>施設の立地条件もあり気軽に隣近所との交流はもてないのが実情である。「地域」を入居者の出身地(生活した拠点)を含めて考えて、町主催の行事や祭り等に参加しつながりを持つようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自分達のやっている事に対しての言葉を、悪く受け取るのではなくこれまで以上のサービスを提供するための言葉として謙虚に受け入れ、サービスの向上に努めるよう話している。</p>	<p>入居者の見やすい位置に時計を配置したりした。個人別の食器(箸・茶碗など)は話し合ったが、入居者の混乱を招く恐れが強いことを確認し行っていない。このように評価の意見をこれからも謙虚に聞きサービス向上につなげていきたい。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域包括支援センター職員からのGH(他施設も含めて)に対して寄せられている苦情についての報告を受け、自分の施設に当てはめて直さなければいけない事は何かなど話し合いをしている。</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は積極的に市町村担当者と行き来する機会を持っている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>月1回行っている職員会(全職員が集まる全体会・事業所に分かれての会議)で意識を高めている。</p>	
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>上記と同じ</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている		
13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
15	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>マンネリ化を防ぐ意味で、入居者の事も考えて1名の異動としている。他のGHの職員の定着率がどれくらい分かれば、理想と現実の参考にしたい。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>学ぶことと打ち合わせする事を重要視している。外部での学びも必要だが、一番大事な事は方針・目標を共有することなので、共有・共感の為に会議を行っている。よって会議等は1h以上とっている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者においては、町社協との打ち合わせは行っているが同業者との交流や勉強会は行っていない。</p>		<p>併設の特養やデイ・居宅事業所職員との交流は行っている。</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスの原因は給与・労働環境にあると思われるが、職員の自発性を阻害しないよう配慮している。職業にストレスがあるということを踏まえて、働くこと・社会情勢について説明し納得のいく職業意識を持つよう配慮している。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>上に同じ</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>先に居宅支援事業所のケアマネが内容を確認してからになるがこちらでも詳しく聞くようにしている。グループホームなので主に入居決定時・面会時・ケアプラン作成時に話しをする事が多い。</p>	<p>話す機会を多くすることは意思疎通につながる事だと思うので機会を多く持ちたい。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>GHなので「他のサービス」というよりは「対応の仕方の工夫」という点で家族と話し合うようにしている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居当初は場の雰囲気になじめるよう職員と家族・本人とも相談しながら進めているとともに、個人をよく把握しGHの一員として生活していただけるようにしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家事や畑作業は職員の力(経験)だけではまかなえるものではなく、その都度どうしたら良いか聞いたり感謝の言葉を掛けている。特に農作物を育てることに關しては教えられる事ばかりである。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	いくら職員ががんばっても家族の協力なしでは進まない事を実感している。その為にも日頃の気持ちの疎通が持てるようにしている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	自分の兄弟姉妹とは良い関係だが、実の娘と兄弟姉妹・本人との仲が良くない入居者がいる。入居されている本人を一番に考えた時に兄弟姉妹の支えが大事とも思うので、身元引受人である娘の意見とは多少違う事を兄弟姉妹に話している。だが、原則関係がこじれないように十分配慮しながらである。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何かある度に兄弟姉妹宅へ電話をし職員や他入居者の悪口を言っている方がいるが、不満をためないためにも好きなようにさせている。また、身元引受人は親戚の方におやつは一切持って行かないように話しているようだが、入居者自身が楽しみにしている事もあるし、親戚の方の想いも理解できるので、こちらでは遠慮なしに来て下さる様いつも話している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	今一番対応に困っている事であり、ホール内の雰囲気を変える為家具の配置換えを行ったりした。		入居者全員が気の合う同士ではないことを自覚している。職員が入居者に支えあう仲間同士であるという事を言動で示していく必要がある。
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	外で会ったときは挨拶・言葉を交わしているが、付き合いを大切にしているという事ではない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>周りから見て乱雑にしている様に見える部屋でも、本人の希望なので暮らしやすいように好きなようにしていただいている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴は文書に残し、分からなくなると時々目を通して見ている。また、会話の中でこれまでの生活歴などを把握するよう努力している。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者の生活歴や性格・体力・認知症の症状を考えた上で無理のない仕事(食事の片付け、下ごしらえ・炊作り・洗濯たたみなど)を担っていただいている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>これまでのアセスメントツールの他に「センター方式」を取り入れ、常に入居者にとって何が一番大事か・どうすることが一番良いかを考え、本人・家族と話し合いチーム間で話し合いを持ち意見を出し合っている。</p>	<p>今まで行っている事で十分なわけではなく、今まで以上に深く話し合っていけたらと思っている。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングは有効期間の中間で行っているが、必要に応じて話し合いをしている。他に毎月の会議で必要に応じて話し合いをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や気づきを毎日記録するようにしている。</p>		<p>今の記録内容ではエピソード記録になっているので介護計画に沿った実践内容などを記録していくよう話している。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>GHができる柔軟な支援として、入居者に合わせて計画をすばやく変更できることだと思う。今までも当日になって運動会見学に出掛けたり、天候に合わせて献立の内容を変えたりしている。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域資源との協働は念頭にあるが、入居者のニーズがないのが現実である。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>本人の意向をくむようにはしているが出て来ないのが実際である。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>具体的なニーズはないが、地域包括支援センターとの連携は必須と考えている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前から診ていただいている医療機関をそのまま利用している。かかりつけ医には緊急時に他医療機関を受診している入居者も診ていただけるようお願いをしている。適切な医療を受けるという面では、治りが悪い場合は特養ナースや家族に相談して病院を変えることもある。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医(精神科)に診ていただいている入居者の他に、心配事がある場合は相談できる体制になっている。職員・入居者共に専門医と信頼関係を築き、相談できる環境を保っていきたい。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の特養ナースに相談したりしているが、原則心配事がある時は病院受診することになっている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は周辺事情を考えてDrに早期退院できないものか相談したりしている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急に状態変化した場合も含めGHでの対応が困難だと考えられる時は、早めにその可能性について家族に説明するようにしている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記に同じ		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報は出来るだけ提供するようにしている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては充分気をつけている。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事の際、よく自己決定する場を設けている。(数種類の魚から好きなのを選んでいただくなど) 自己主張する入居者は決まってい、他の入居者が我慢している面もあるかと思われるので、職員が代弁するようにしている。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「安全確保」と「希望に沿う支援」の両立は難しい面もあるが、最大限どちらも保つように工夫している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外部の店ではないが、特養にきている理容かデイスに来ている美容院か本人に合わせて決めていただいている。家族から小綺麗にして欲しいと要望のある方はまめに美容院を利用している。逆にお金がかかるからという家族もいて入居者・家族共にうまく行くように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り職員と入居者が一緒に行うようにしている。ただ、気力と体力の不一致、気力があっても不潔行為があったりと、家事を担っていただきたい気持ちはあるのだが衛生面を考えると迷う事ばかりである。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙の習慣がある方には場所を決めて吸っていただいていた。現在は喫煙・飲酒の嗜好の方がいない。おやつも遺影に供える方がいてその方の好きな物を選んで購入している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便困難な方・便失禁する方及びいつ排便しているかわからない方に排泄表を用意し排泄パターンを把握するようにしているが、できるだけ目で確認するようにしている。だが、職員が確認しにくい方もいて入居者全員の把握ができていない。		各入居者の性格・精神状態に合わせて誤解のないようにして確認して失敗なく気持ちよく排泄していただくよう援助していきたい。
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴としている。入浴日の回数ではなく入浴の順番でもめることがある。いつも思うがおとなしい方がいつも損をしているように感じるので、こちらで順番を配慮しているのだが、うまくいかないのが現状である。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠に関しては睡眠障害の方もなく良眠されている方が多い。就寝時間についてはこちらも神経質にならず、時々眠るよう促す程度で対応している状態で特に問題はない。ただ、日中の居眠りをする方が多く感じるため、無気力な時間が多いのかと反省している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かし畑仕事に率先して参加してくれる方や、逆に経験はないのに気晴らしに外に出たいと言う方にも作業の不出来は気にせず参加してもらっている。各入居者の持っている力がバランスよく発揮できるようにしたいが縄張り意識を持っている方がいて親切心で手伝おうとする方に不愉快な思いをさせているようで心苦しい時もあるので、良い雰囲気でお断りするようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	娘である身元引受人よりお金を使わせないようお願いされたが、自分でお金を使うという事もこれまでの生活を考えると切り捨てる事が出来ないで、たまに自動販売機でジュースを買うことを了承してもらっている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者まとまっての外出ではなく、個々の気分転換の意味も含めてスーパーの買出しなどに誘ったりしている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	文章をそのまま解釈して考えれば、こういう支援はしていない。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に家族からの手紙や電話であるが、やり取りは出来ている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の回数から言えば多いほうではないと思うが、居心地よく過ごせるよう雰囲気作りには気を配っている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをすることが一番だが、どうしても安全のために必要な場合は家族に説明をして行った事もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の戸を開けっぱなしにしている。鍵を掛けることの弊害というよりは、戸締りが日課の方がいて自分の思った時にいつでも鍵を掛けることで入居者間でトラブルになることもある。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	特に夜間は自室の戸を閉め切ってしまう方が多いので、家族にも説明をし本人にも忘れることが多いが安否確認させていただいている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者によってティッシュペーパー・トイレトペーパーと昔ながらのチリ紙を使い分けている。(排水溝やトイレ詰まり防止のため)		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作り対応方法を適宜確認している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	上記と同じ。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回の総合避難訓練に入居者が参加したり、職員はこの他に消火訓練を行ったりしている。(併設の特養と一緒に)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	今部屋移動を考えている入居者がいるが、その事によって起こりうるリスクについて家族に報告し、職員間ではこれまでの業務体制では対応しきれないことも確認している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	様子がおかしいと思ったらバイタルチェックし記録に残すようにしている。対応に困った時は併設の特養ナースの指示を仰いでいる。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的など理解に努めているが正直忘れる時もある。服薬の回数など入居者本人が忘れることが多く服薬の支援に努めている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘については、排便の確認が難しい方が多く月の目標に掲げ排便確認及び間隔の把握に努めた。また、不潔行為確認から食べ物(山菜)が体質に合わず便秘になった例もある。排便間隔を行う点で自室にトイレがあると便利な面・不便な面を感じている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の汚れが目立ってきた方がそれまでは義歯洗浄剤を自力管理で行っていたが、いつの間にか洗浄剤を使うことを忘れていたので1日3回歯磨きを使っての清潔保持(職員見守り・指示のもと)に努めている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に数回特養栄養士に献立表を確認してもらい、アドバイスをいただいている。入居者が食べなれた献立となるとマンネリ化になるが、野菜を多く取り入れるようにし偏りのない献立になる様常に心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作り対応方法を適宜確認している。日々、危機感を持って手洗い励行している。特に食事前や調理前には念入りに職員・入居者共に充分に手洗いするようにしている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんなど消毒に努めている。が他GHの様子を聞くと食器乾燥機等を使用しているところもあるようで、このままでも良いものかと考え中である。今出来る最善の事は職員が衛生意識を持って対応していく事が大事だと思っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に鉢植えを置いたりして雰囲気の良い様工夫している。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節に応じた壁画を飾っている。子供っぽくならないように配慮はしているが、可愛いのが好きな方もいるので喜んでいただいている。夜間や早朝は周りに配慮し灯りを消したり、音を低くして全員が心地よく過ごしていただけるよう配慮している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ気のあう入居者同士がまとまるよう配慮はしているが、上手くいっていない。片方が良くても片方に悪影響が出ている事もあり対応に苦慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は原則持込禁止の物はない。本人が居心地良く過ごせるよう任せているので、周りから見て汚くしていると感じることもあるかと思う。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温度調節・空気の入替えなどしたいのだが、思うように出来ないのが現状である。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>屋内はバリアフリーで壁には手すりをつけている。居室もその方に合わせてトイレの近くに手すりをつけたり自立できるように工夫している。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>自室を間違える方がいるので、色花紙や可愛いイラストで目印にしている。それでも間違えることがある。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>特養とつながっているので自由に行き来している。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)